

「全国アマモサミット2011」実施報告書

平成24年2月28日

「全国アマモサミット2011」実行委員会

目 次

1 . 活動の経過	1
2 . 実行委員会	1
3 . 「全国アマモサミット2011」開催会場	3
4 . 主催関係	3
5 . 「全国アマモサミット2011」プログラム	4
6 . 講演・発表	4
7 . 「全国アマモサミット2011」特別企画	15
8 . 「全国アマモサミット2011」連携企画・淡路島由良アマモ見学ツアー	17
9 . 「全国アマモサミット2011」交流会	18
10 . 「全国アマモサミット2011」の広報関係	19
11 . 「全国アマモサミット2011」会計報告	22

1. 活動の経過

年月日	事項	摘要
2011. 5.13	第1回実行委員会設立準備会	開催趣旨書、実施内容ほかの検討
2011. 6.29	第2回実行委員会設立準備会	実施体制、実施予算ほかの検討
2011. 7.19	実行委員会設立総会	事務局の設置、役員の選出ほかの検討
2011. 7.19	第1回実行委員会	実施体制、費用弁済ほかの検討
2011. 8.25	第2回実行委員会	ザミット・プログラム、ポスター展示ほかの検討
2011. 9.13	第3回実行委員会	イベント、会場・受付ほかの検討
2011. 9.27	第4回実行委員会	広報、交流会ほかの検討
2011.10.18	第5回実行委員会	講演要旨集、会計ほかの検討
2011.11.15	第6回実行委員会	準備作業の確認
2011.11.20	全国アマモサミット2011	大阪・海遊館でサミット開催
2012. 1.17	第7回実行委員会	収支報告、実行委員会解散決議ほか

2. 実行委員会

アマモ種子バンク、環境教育技術振興会、釣り文化協会の3団体で実行委員会設立について協議し、「全国アマモサミット2011」実行委員会設立趣旨書を作成し、概略の実施内容、予算を確認した上で、2011年7月19日に設立総会を開催し、正式に実行委員会を立ち上げた。

「全国アマモサミット2011」開催趣旨書

～アマモ場再生の輪を拡げよう！～

身近にあって、さまざまな生き物が棲み、魚介類が食卓を賑わし、潮干狩りや魚釣りを楽しめる海：豊かな海：は我々の生活も豊かにしてくれます。しかし、これまでの埋立地の造成や、企業、家庭からの排水（下水）による海底の砂泥質や水質の悪化などが、浅場、アマモ場、干潟や砂浜などを数多く消失させ、生き物の棲み処をなくし、魚介類を減少させ、また人々を海から遠ざけてしまいました。

アマモ場、浅場や干潟は沿岸域における魚介類、エビ、カニなどの小動物の産卵や生息の場、幼稚仔魚の生育の場として、さらに海の自浄機能の要の場として、豊かな海には欠かすことができません。この豊かな海を再生する方策の一つとして、「海のゆりかご」と称されている「アマモ場」を増やす活動を、全国各地で自治体、漁業協同組合、市民団体、NPO法人等が多様な形態、協働して行っています。近畿地方でも大阪湾、播磨灘、紀伊水道などにおいて、アマモ場再生・回復の取り組み・活動が広がっています。しかし、アマモやアマモの役割について見たことも、聞いたこともない人が多く、まして活動に参加する人は非常に少なく、一般市民の参加する（参加できる）活動として定着するには至っていないのが現状です。

アマモ場再生を目指して活動する人達が集う場として、「全国アマモ・サミット2011」を横浜、米子、指宿に引き続いて大阪で開催します。この開催の目的、趣旨は地域、所属、立場を越えた、アマモ場再生活動についての互いの知見・経験の交換です。さらに、一人でも多くの人達に大阪湾をはじめとする沿岸海域の生き物たちの生息環境であるアマモ場の現状と役割を知ってもらうよう魅力ある情報発信をして、アマモ場再生活動の周知を図ることで、これらを通して、今後のアマモ場再生活動の活性化と輪の拡がりを期待しています。

平成23年7月19日

「全国アマモサミット2011」実行委員会

委員長 出口一郎（アマモ種子バンク）

副委員長 関藤博史（環境教育技術振興会）

(1) 会則

当初は会則のない、自由に出入りできる緩やかな組織としたが、後援、協賛ほか対外的に働きかけるには必要ということで、最小限の条項で会則を決めた。

「全国アマモサミット2011」実行委員会会則

- (名称)
- 第1条 本会は、「全国アマモサミット2011」実行委員会という。
- (事務所)
- 第2条 本会の事務所は、西宮市鳴尾浜一丁目1番18号に置く。
- (目的)
- 第3条 本会は、「全国アマモサミット2011」を実施することを目的とする。
- (事業)
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業及び活動を行う。
- (1) 「全国アマモサミット2011」の企画の樹立及び立案並びにその実施に関すること。
 - (2) 「全国アマモサミット2011」の実施のために必要な資金の収集に関すること。
 - (3) 「全国アマモサミット2011」の実施のために必要な各種手続きに関すること。
 - (4) その他目的の達成のために必要な事項に関すること。
- (実行委員)
- 第5条 本会の実行委員は、本会の目的に賛同し、事業の実施に参画するため本会に登録した団体、個人とする。
- (役員の種類及び任期)
- 第6条 本会に次の役員を置く。
- (1) 委員長 1人
 - (2) 副委員長 1人
 - (3) 事務局長 1人
 - (4) 監事 1人
- 2 委員長、副委員長、事務局長及び監事は、実行委員の互選により定める。
- (役員職務)
- 第7条 委員長は、本会を代表し、業務を統括する。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し、業務を処理するとともに、委員長に事故あるときはその職務を代理し、委員長が欠けたときはその職務を行う。
 - 3 委員長は、業務の執行を決定する。
 - 4 事務局長は、本会の事務を処理する。
 - 5 監事は、本会の事務を監査する。

- (会議の種類及び頻度)
- 第8条 本会の会議は、実行委員会とする。
- 2 実行委員会は、実行委員をもって構成する。
 - 3 実行委員会は、本会の運営に関する重要事項を決定する。
- (会議の招集、運営等)
- 第9条 会議は、委員長が招集する。
- 2 会議の議長は、委員長が当たる。
 - 3 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。
- (事業計画及び予算)
- 第10条 本会の事業計画及び予算は、委員長が作成し、実行委員会の承認を受けなければならない。
- (事業報告及び決算)
- 第11条 本会の事業報告及び決算は、委員長が作成し、監事の監査を経て、実行委員会の承認を受けなければならない。
- (解散)
- 第12条 実行委員会は、その目的が達成されたとき、または、実行委員会の会議において解散の決議があったときに解散する。
- 2 解散する場合に、残余財産の処分は実行委員会の会議において決定する。
- (会則の変更)
- 第13条 この会則は、実行委員会の議決を受けなければ変更することができない。

附 則

この会則は、平成23年7月19日から施行する。

(2) 実施体制

事務局にプログラム、展示ほか7つのWGで具体的な内容を検討し、実行委員会で協議、決定していった。また、実行委員会メンバーのほかに、趣旨に賛同し、協力して頂けるボランティアスタッフには各WGでの作業を随時お願いした。

「全国アマモサミット2011」実施体制						
実行委員会		委員長	事務局	ボランティアスタッフ		
委員長	出口一郎					菅間 修 北藤真人
副委員長	関藤博史	副委員長		プログラム担当	倉田克彦	森 鐘一 松本貴美枝
事務局長	芳田利春			展示担当	山中智央	稲田 勉 城者定史
会計監査	岩井克巳			広報担当	白井信雄	赤井新也 川崎菜美
運営委員	椋山 明			会場・受付担当	赤野 博	吉田裕之 宮下幹加
同	山中智央			交流会担当	椋山 明	海老名正裕 田中正視
同	石川雅英			イベント担当	石川雅英	有田 守 山野智志
同	倉田克彦			総務・会計担当	芳田利春	草間さおり 村瀬美穂
同	白井信雄					速形 豪
同	赤野 博					
アマモ種子バンク	出口一郎、芳田利春、椋山明、山中智央、石川雅英、倉田克彦、白井信雄、森鐘一、稲田勉、有田守					
環境教育技術振興会	関藤博史、岩井克巳、松本貴美枝					
海遊館	北藤真人					
約り文化協会	菅間修					
大阪湾見守りネット	田中正視					
大阪港湾・空港整備事務所	山野智志					
東洋建設㈱	赤野博、海老名正裕					
錦ラッシュジャパン	川崎菜美、草間さおり					
須磨海浜水族園	吉田裕之					
海のいのちクラブ	宮下幹加					
市民	赤井新也					
大阪ユニケーション専門学校	村瀬美穂、城者定史					
シー・オーシャン	速形豪					

(3) 実行委員会

実行委員会は月1回のペースで開催し、実施内容を順次決めていった。

なお、委員会は当初は貸し会議室を利用していたが、第2回実行委員会以降は国土交通省大阪港湾・空港整備事務所会議室を無償で使用させて頂いた。



第1回(新大阪丸ビル本館)



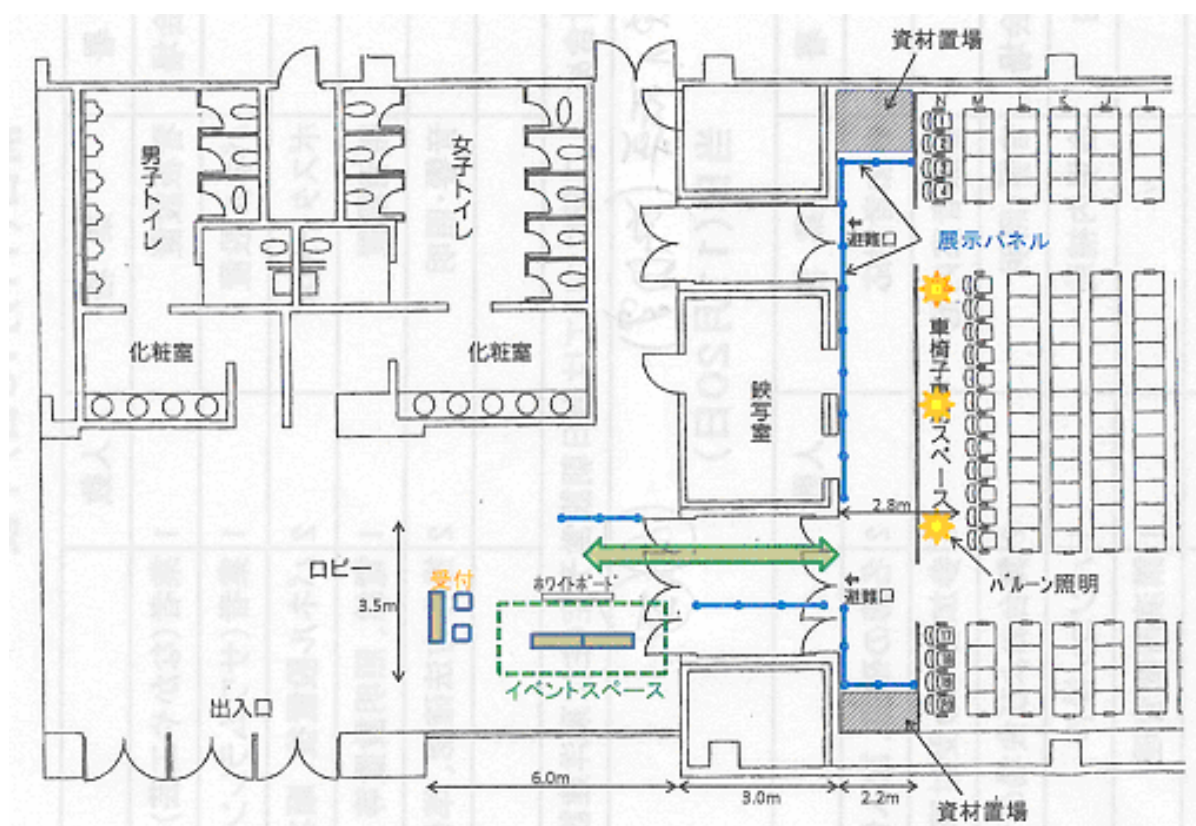
第6回(大阪港湾・空港整備事務所)



3. 「全国アマモサミット2011」開催会場

海遊館が特別企画展「ちいさな海のいきものたち かわいい!コレクション」で、アマモ水槽を設置し、海の小さな生き物たちのかわいい素顔にスポットを当てた展示をアマモサミット開催時期に行っていることもあり、サミット開催会場として海遊館ホールを無償で貸与して頂くとともに種々の便宜を図って頂いた。

なお、全国でアマモ場再生活動を行っている諸団体のポスター展示、特別企画「アマモスケッチの展示と塗り絵コーナー」、受付などの配置は以下のようにした。



4. 主催関係

(1) 主催

「全国アマモサミット2011」実行委員会

(2) 共催

アマモ種子バンク、環境教育技術振興会

(3) 後援

国土交通省近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所、環境省近畿地方環境事務所、洲本市、大阪湾再生推進会議、(財)ひょうご環境創造協会、全国漁業協同組合連合会、由良・生石研究村

(4) 協賛

未来守りネットワーク、東翔建設(株)、コーセー化粧品販売(株)神戸支店

(5) 協力

海遊館、釣り文化協会、大阪湾見守りネット、国立公園成ヶ島を美しくする会、ジーオーシャン、神戸市立須磨海浜水族園、りんくう沿岸漁業振興連絡会、ラッシュジャパン、江井ヶ島漁業協同組合、赤穂市漁業協同組合、新庄漁業協同組合、海のいのちクラブ

(6) 助成

「全国アマモサミット2011」は、大阪府より大阪府環境保全活動助成金および一般財団法人みなと総合研究財団より平成23年度未来のみなとづくり助成(港・海辺活動)を受けて実施した。

5. 「全国アマモサミット2011」プログラム

全国アマモサミット2011

(2011年11月20日 於 海遊館ホール)

開_____会 (11:00~11:10)

開会挨拶 : 出口 一郎

来賓挨拶 : 宮島 正悟

大阪湾再生推進会議 海城グループ長
(国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部 港湾空港企画官)

5. 特別講演(2) (15:25~15:55)

みんなで取り組む海城環境の保全・改善 -研究者、市民、NPOの役割-
古川 恵太
国土交通省 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋部 沿岸海洋新技術研究室

講演・発表

1. 一般講演(1) (11:10~12:30)

- ①由良湾アマモ場の生きものたち
花野 見一 国立公園成ヶ島を美しくする会 会長
- ②大阪湾のアマモ場を通じた活動報告
延岡 爽、岡山 拓巳 大阪コミュニケーションアート専門学校
- ③アマモ in 西島取
前田 ゆきみ 阪南市立西島取小学校 教諭
- ④アマモマーマイドプロジェクト
福井県立小浜水産高等学校 ダイビングクラブ

2. ポスター発表

- ①ポスター発表(展示) (10:00~18:00)
各機関、団体
- ②総括報告 (12:30~12:45)
綱島 靖信
大阪府環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター 主任研究員

3. 特別講演(1) (13:45~14:15)

- 豊かな藻場を取り戻せ! ? 全国に広がる磯焼け対策の紹介?
桑原 久実
独立行政法人水産総合研究センター 水産工学研究所 水産土木工学部
生物環境グループ長

4. 一般講演(2) (14:15~15:15)

- ③大阪湾を魚礁(ないわ)の海に戻そう -泉南の海でアマモを増やす-
赤井 重雄
りんくうタウン沿岸漁業振興連絡会 泉佐野漁業協同組合 参事
- ④伊勢湾沿岸のアマモ場造成とその課題
国分 秀樹
三重県水産研究所 水圏環境研究課 地域COE
閉鎖性海城環境研究所 研究員
- ⑤博多湾東部におけるアマモ場づくりの取り組み
甲斐 由将 福岡市港湾局 環境対策部 環境対策課 環境対策係

開_____会 (17:10~17:15)

閉会挨拶 : 関藤 博史
全国アマモサミット2011 実行委員会 副委員長

交流会

会場 メルボルンハウス (18:00~18:30)
天保山マーケットプレイス 2階

特別企画

①海遊館ガイド・ツアー (9:45~10:50)
バックヤードの見学

②アマモスケッチの展示と塗り絵コーナー

会場 海遊館ホール前 (10:00~18:00)

連携企画

淡路島由良アマモ見学ツアー
-みんなで成ヶ島のアマモを見に行きませんか-

日時 2011年11月19日(土)13時~20日(日)10時
場所 兵庫県洲本市由良(成ヶ島)
主催 由良・生石研究村運営協議会
(事務局 : 洲本市由良支所)

6. 講演・発表

(1) 参加者

一般来場者 127 人、講演・発表者 40 人、スタッフ 31 人の合計 198 名で、目標の 200 名にほぼ達した。



(2) 講演およびパネルディスカッションでの質疑

- 1) 一般講演 アマモ場の保全・再生活動(1) - 学校、市民団体、NPO による取組み -
由良湾アマモ場の生きものたち
花野晃一（国立公園成ヶ島を美しくする会）



Q . 漂着ゴミの清掃、潮干狩りなどによりアマモ場が再生したとしているが、それら活動により透明度など海の環境が良くなって再生したと想定されるが、海域環境のデータはありますか？

今回発表したことに関わるデータは検証データも含めて全てあります。あとで資料をもらって下さい。

環境省も由良湾で毎年モニタリング調査を行い、生物多様性センターのホームページで公開しているので参考に。

その調査を現地の人間が知らないのはおかしい。避けて通るといえるのは？

地元の方々の地道な活動には頭が下がりますが、環境省のモニタリング調査も 5 年継続しており、専門的な立場の人間と地元の方とのつながりも、昨日の淡路島由良アマモ見学ツアーの参加者からしてようやくできてきたのでは？ホームページを開いて、海洋生物などに一度目を通して下さい。

大阪湾のアマモ場を通じた活動報告

延岡爽、帰山拓己（大阪コミュニケーションアート専門学校）



Q . 次世代への継承は大事だと思います。そこで、活動をされていて、うれしい、楽しいと感じるのはどんな時ですか？また、子ども達がどういう場面で一番反応が大きいですか？

事前学習で実際にもぐり、多くの生き物を見出し、実感する時、また、子ども達が興味を持ってくれ、話を聞いてくれ、正しいことを行っているのだと思える時などです。

Q . 大阪湾では冬場は北風が強く、アマモ場は水深の浅いところにあり、風波の影響を受け、砂が動くなどの影響を受けるのでは？

シートを付けて苗を植えていることで対応していると考えているが？

波が立ちやすい場所などで、アマモ場が永く維持されることを考えていって下さい。

Q . 小学校と専門学校との枠組み作りはどうされているのか？教育委員会などを通しているか？

学校から連絡を受けてやっている。対応は担当していないので、お答えできない。教育委員会は関与していません。見守りネットを通じて小学校を紹介されて、それでOCAに紹介して連携して行っている。

Q . 小学生が移植したアマモを実際にはみれない。自分達がやったことの成果がみえないと失望するのでは？そこで、アマモ場はこんなに豊かなんだということ、成ヶ島ほかのアマモ場を先にみて知ることが肝要では？

小学生がみれないのは確かに。しかし、アマモを少しでも知ってもらい、子ども達が大きくなった時にアマモ場再生活動に参加してもらえればと考えている。豊かなアマモ場をみることは大事だということ、そのとおりと思う。目標として、機会があれば成ヶ島に行きたい。

アマモ in 西鳥取

前田ゆきみ（阪南市立西鳥取小学校）

Q . 年間の学習時間は？

総合的学習の中での環境の時間は4~5回で12~13時間ほどで、少ない年で5~6時間ほどです。海に近いということで、子ども達は常に海に接しています。

Q . 1~6年の各学年がそれぞれの課題で環境学習を行っているが、前田先生のみで行っているのか？



NPO 法人などの指導を受け、別々の担任の先生が行っている。調整はしています。

Q . 理解のない校長が来た場合、横浜でも先生方が苦しんでいるのをみますが、担任の先生は大変だろうなとおもいますが？

里海公園、漁協が関わって教育委員会活動に協力していますので、理解のない管理者はいません。同僚の場合、育てながら指導していくようにしています。

アマモマーメイドプロジェクト

福井県立小浜水産高等学校 ダイビングクラブ



Q . 撒き餌をして釣りをしていたことを反省している。30年前にはあまもはビッシリだったのに。そこで、壊した環境を元に戻すには、釣り人がどう行動すればよいでしょう？

釣り人がどうしたらよいか？初めて聞きました。詳しく調べて連絡したいと思います。

2) 特別講演 豊かな藻場(もば)を取り戻せ！ ～全国に広がる磯焼け対策の紹介～

桑原久実(独立行政法人水産総合研究センター 水産工学研究所)

Q . 東日本大震災で、引き波によりアマモ場が流失しているとのことですが、残っている場所もあるとか。どんな場所に残っているのか？

現在、水産基盤グループで解析中で、もう少し時間がかかります。

Q . 植食動物による食害を、ユニフェンスで防止することで、群落として安定するか？



100m×100mでもあつという間になくなる。ウニフェンスを張ることで、磯焼けに向かう傾向が薄れること、また、100m×100mの藻場を複数配置することで、ウニフェンスなしで防げないかをこれから挑戦していく。

Q . 海の対策も、森とか陸上に似たものがあるということ？

藻が生えない原因を理解し、対策を考える。できるだけつづけられる対策を考えたい。

- 3) 一般講演 アマモ場の保全・再生活動(2) - 漁業者、行政による取組み -
 大阪湾を魚庭(なにわ)の海に戻そう - 泉南の海でアマモを増やす -
 赤井重雄(りんくうタウン沿岸漁業振興連絡会 泉佐野漁業協同組合)



Q . 播種シートを同じように製作し、各海域で違いがある場合、環境条件にどんな違いがあったのか？

確かにうまくいっていない海域では 5 年間×ですが、自分達で捻出したお金で、自分達の浜になんとかアマモ場をと粘り強く行っている。

種子の成熟度が違い、当年度に発芽しないものも 2 年後、3 年後に発芽し、死んでいるわけではないので、種子の発芽率の差異は気にしていない。

底質に泥が含まれている海域では上々の結果であり、大阪湾では波や流れが適当にあって、粘土 分が多少含んでいる海域がよいようで、この底質の差異によると考えている。

そこで、田尻では港内に砂場がなく 5 年間うまくいっていないため、播種シート

上に砂を少し入れてみてはと砂 10 袋を入れたが、場の改善につながっていない。
伊勢湾沿岸のアマモ場造成とその課題
国分秀樹（三重県水産研究所 閉鎖性海域環境研究所）



Q . アマモが繁茂すれば貝桁網漁もわざわざ曳かない。貝を大きくして保存することに繋がるのでは？

松阪では自主的管理でアマモ場ではとらない。御殿場では保護柵を設けている。この違いは漁業者の意識の差異で、アマモ場周辺で大きなアサリがとれると実感できているかどうかの違い。

Q . これまでノリ業者はアマモの小さな流れ藻でもノリの品質が低下するとしてアマモ場を嫌ってきたが、貴報告結果からするとアサリの保護区にもなる、アマモ場造成をすすめていくのか？

現状ではそれほどアマモ場造成を行っていない。

Q . 5月のゴールデンウィーク頃になると、アサリを育てても貝毒が出るが？

定期的にマウス試験、プランクトン調査を行い、基準値を超えているかどうかチェックしている。

博多湾東部におけるアマモ場づくりの取り組み
甲斐由将（福岡市港湾局 環境対策部）



Q . いくらかかりますか？

1,300 m²で 2,000 万円程度です。が、今年度の事業仕分けの一つになり、この事

業をやっていいかどうか審議されました。その結論は継続と要改善で、もっと市民へ向けてテレビほかを通してもっとPRするべしとのこと。

Q . 市民が頑張っているのに、行政は目を向けないことが多くある。福岡市民が知らなくてやれるのは、トップの判断なのか？ ということによって可能になっているのか？

埋立事業で収賄が発覚し、悪名が高くなったことから、積極的にいいことをやろうということになった。エコパークゾーンは今後とも港湾局が担当していきます。

4) 特別講演 みんなで取り組む海域環境の保全・改善 - 研究者、市民、NPOの役割 -
古川恵太 (国土交通省 国土技術政策総合研究所)



Q . 官という立場と行動する、発信する市民の立場の両方に立っておられ、官と市民をつなげるにはどうしたらよいのか？ 官が名指しでNPO、市民団体に来いというのか、または市民団体から要望されるのか？

ケースバイケースである。国は市民と直接接触するが、自治体が接触する例はあるが、頻度は小さい。どなたか間に入ってコーディネートする必要がある。行政の立場で翻訳して。説明してもらう人が要る。半分民間、半分官の立場でということ、うまくいっているように思う。

5) パネルディスカッション

アマモ場の保全・再生活動の進展 - NPO、市民は何を目指して、何をするか
コーディネーター 前川行幸 (三重大学生物資源学部)

パネリスト	研究者・行政の立場で	工藤孝浩 (神奈川県水産技術センター)
	市民活動の担い手として	西野ひかる (アマモサポーターズ)
	事業者の立場で	岩井克巳 (環境教育技術振興会)
	連携機関として	田中正視 (大阪湾見守りネット)
	企業・市民活動・NPOの立場で	稲田 勉 (東洋建設株)

・ 技術的なことは、問題はあるもののうまくいっている。市民との、また、地域との連携を行うには問題があるのでは？

俳句の指導では、”きっかけ、気づき、気持を大事に”の3つの動機付けを念頭に行っているが、それと同じで、アマモの再生活動においても笑顔に会いたい、海に近づくきっかけづくりをしたい、豊かな海づくりのお役に立ちたいという気持ちを培うことが大切です。

地域の受益者として、それぞれが役割を担うことが大切では。



行政はいつまでも期待できない。行政との連携は短期的には効果的だが、予算と人も有限であり、一つのことにとずっと関わることはできない。また、行政には市民にできないことを行政はできるという強みがある。そこで、協働事業が大事になる。成功事例では当事者意識のある団体、市民、NPOが必ずいます。行政は仏を作っても、魂を入れません。

地域の方々次第では？大阪湾見守りネットは立派な人の集団ですから、みんながバラバラにならないよう、つないでいくことが自分の役割と思っています。

”きれいで、楽しくて、美味しくて”と言えるはずの海に元気がない。そこで、輪っか、海輪っかづくりを行ってきたが、海だけではどうにもならないことに気づき、上流側の人、若狭地区も含めた緩やかなネットワークづくりを行っています。いろいろな力を借りて、湾全体を良くすることを考えています。

- ・うまうまいかなかったところは何が原因で、また、どうしたら良かったのか？そして、こういうところがうまうまいけば、連携がうまうまいくのにといい点はありませんか？
新潟県加茂湖では漁協さんがアマモ場再生を目指してスタートし、2年目からは小学校の総合的学習として子ども達も加わり、漁協、小学校のほか地元コンサルさんにも入って頂きましょうという枠組みづくりをし、実施してきた。しかし、4年目になると小学校の子ども達がうまうまいなくなってしまった。これは、当方の努力が足りなかったこともあるが、行政(佐渡市)がもう少し動いてくれて、教育委員会との話し合いの中で意義をしっかりと繋いでくれておればなと思う。今年も行ったが、活動を続ける中で関係を修復していく。人との繋がりがキーワードで、繋がりをうまうまい作れなかった失敗例として挙げました。
- ・教育委員会はもっと動いてほしいと思いませんか？
基本的には諦めている。教育委員会を通してチラシを各校に配布しても、配るだけで反応なし。が、卒業生(小浜水産高校の生徒)が各校に行くと対応してくれる。それでも各校の担当者が変わるとうまうまいかないので、毎回毎回やっていってるといふ感じですね。
率直に言って、教育委員会はそういう仕事はできないと思う。無理です。自分達の仕事でアップアップしている。そんな組織に仕事を増やしてと要望する方が間違っている。教育委員会に迷惑をかけないよう、段取りするという形でない駄目です。こういうことをやりたいが、役所としてかんでおいてほしい。逃げないで下さい。ただし、人やお金は全て段取りしますと言えば、教育委員会も元気になります。仕事もしてくれます。

- ・教育委員会にこれをしてくれというのではなく、これこれのことをやりたいから認めてほしい。こういうことをやりますのでよろしくと言っても、なかなか動いてくれないですね。なんとかならないかと普段から思っているが。

熱心な先生が各学校にポツリポツリとおられる。その先生方が動きやすい土壌づくりということで、横浜市金沢地区の校長会がるが、その年度当初の校長会に代表を送り、アマモ場再生会議として行う年度計画を説明しておく。これで、イベントのチラシなどを各校に送ると、自動的に子ども達に届いている。

- ・新聞、ラジオほかのメディアをとうしての広報は有効なのかどうか？メディアとの付き合い方は？

大阪でも南の方にいくと出張費が出ないということで記者の方も来づらいということがあがるが、われわれの仲間で潜るのが好きなテレビカメラマンや記者の方がおられる。その個人的な繋がりがわれわれの活動を広報してくれている。ある意味ギブアンドテイクの関係で、記者もこの活動を記事にすればどう自分のためになるのかを考え、われわれも記事になれば何が得られるのかを考える。このバランスがうまくかみ合った時にうまくいくのかなと思う。

- ・みなさんそれぞれの立場で非常に活発に活躍されておられるが、個人的な能力に負うところが大きいということか？

能力というより、これを「やってほしい」、「やりたい」と、諦めずにやる熱意だと思う。

自分を身の丈以上に見せたり、したり、求めたりせず、お互いが自分の持っているものを素直に出していれば、自然と声をかけられるし、かけやすくなる関係が生まれる。自分のやれない事を背伸びしてやろうなどと欲張りすぎるのはよくない。

団体にはコーディネイト、コネクションをつける人が必要。

- ・次に漁業者との関係ですが、どうでしょうか？

当初、ノリをつくる方々との軋轢がシビアな問題としてあった。PL法などから、自分達をつくる製品に対して神経を尖らせていて、アマモの葉っぱなど異物の混入は徹底的に排除したいという考えで、われわれが考える以上にナーバスで、なかなか受け入れてもらえない状況であったが、とにかく顔を合わせる機会を増やすことで克服してきたのかなと思う。例えば、アマモの種まき会などイベントの会場を敢えて反対勢力の多いところの漁港を使うとか、漁業者が来てもらえないことを承知で、漁協事務所夜にアマモ場活動の報告会を開くということで、われわれから漁業者側に入っていき、そして、行でのイベントで漁業者の領域に普通の人をどんどん呼び込む。横浜という都会に漁港があり、漁業者がいること自体知らないということが多かった。漁師から漁船などの説明を受けたりする中で、漁師も一般の人の目で見られているという意識から、漁師にもだんだんと社会性がでてきて、そんな感じで漁師も変化し、うまくいけるような雰囲気となった。しかし、時間はかかった。5~6年かかった。

漁業者が高齢化していたり、仕事に忙しく余裕がないという中で、私達に都合の良い、天気の良い休日のイベントでは、漁業者は釣りや漁の仕事にでたいということでうまくいっていないことがある。漁業者の方にしかできない役割、これを是非やって下さいというようなことを考えていくのがよいのかなと感じた。

アマモが生えているところのノリの方が色がいい。混ぜ物が入るが、今では機械とかで十分洗浄、除去できる。このノリの色がいいということは、アマモ場の近くでは物質循環が早くいくことから、アマモとノリが栄養を競合するのではなく、利用できる栄養が多くなるということだと思う。アマモがあるからノリがある、アサリ

がわくということを知っているところでは、漁師はアマモ場には絶対入らない。

- ・学校の先生方には「どのようなことをするのかわからない」という心配があるが、学習指導案のメニューを作り、提示している。また、やって頂いた先生方にはほかの先生方も集めた研究発表会で発表して頂いている。
- ・漁師さんとの繋がりでは、やはり土日に活動するとどうしても駄目ですね。しかし、環境が、アマモ場が悪くなればなるほど、漁師も本格的に取り組まなくてはと動いてくれるようになってきている。また、若い漁師さん達がブルーーツーリズムで漁業体験などをされており、それと一緒に、からめてアマモ場再生を行うことを計画している。
- ・漁師さんとの会合は、昼間は駄目。17:00に漁を終え、18:00に食事という漁師の生活サイクルに合わせないといけない。普段の日の19:00以降。

(3) ポスター発表

1) 発表者一覧

発表題目	団体名称	所在地
「内之浦湾を良くする会」近況	特定非営利活動法人 内之浦湾を良くする会	和歌山県
僕らの海は僕らの手で： 地元小学校との取り組み	特定非営利活動法人 海っ子倶楽部	兵庫県
大阪湾見守りネット	大阪湾見守りネット	大阪府
富山県滑川市高月海岸における アマモ定植活動報告書	富山県立海洋高等学校海洋クラブ、 富山県立滑川高等学校海洋クラブ	富山県
分布南限域におけるアマモの 季節消長と光合成活性の季節変化	鹿児島大学水産学部 長崎大学附属豊原東洋海環境資源研究センター	鹿児島県
横浜でのアマモ場再生活動報告	金沢八景-東京湾アマモ場再生会議	神奈川県
アマモ場の生物展示	鴨川シーワールド 魚類展示課	千葉県
アマモ場づくり活動	日本カブトガニを守る会笠岡支部 神島、寺間・見崎浜づくり	岡山県
よみがえれ中海！	特定非営利活動法人 未来守りネットワーク	鳥取県
中学生と地域がタッグを組んで臨んだ アマモ場の再生活動	愛知県西尾市立佐久島中学校	愛知県
斐伊川水系における コアアマモ個体群の空間的遺伝構造	島根大学 汽水域研究センター	島根県
人工物とアマモによる 新たな生態系創造計画	特定非営利活動法人 庄内浜を考える会	山形県
ダイバーによる アマモ場再生プロジェクト	特定非営利活動法人スカーフミュージアム 三浦・湘南ECOダイバーズ	神奈川県
全国アマモサミット2010 in 鹿児島 「海のゆりかご」の再生を目指して・・・漁師たちの挑戦・・・	全国アマモサミット2010 in 鹿児島 実行委員会	鹿児島県
静穏海域にアマモを生やしたい	防衛大学校建設環境工学科、エスベック ミッドランド、神奈川県水産技術センター	神奈川県
アマモ場(海のゆりかご)再生への取組	愛知県立三谷水産高等学校海洋資源科	愛知県
紀伊半島西部の内湾におけるアマモ類 の経年変化からみる生育適地の検討	和歌山大学大学院システム工学研究科、和歌山大学 地域創造支援機構、和歌山県水産試験場	和歌山県

2) ポスター発表の総括報告

鍋島晴信（大阪府水産技術センター）

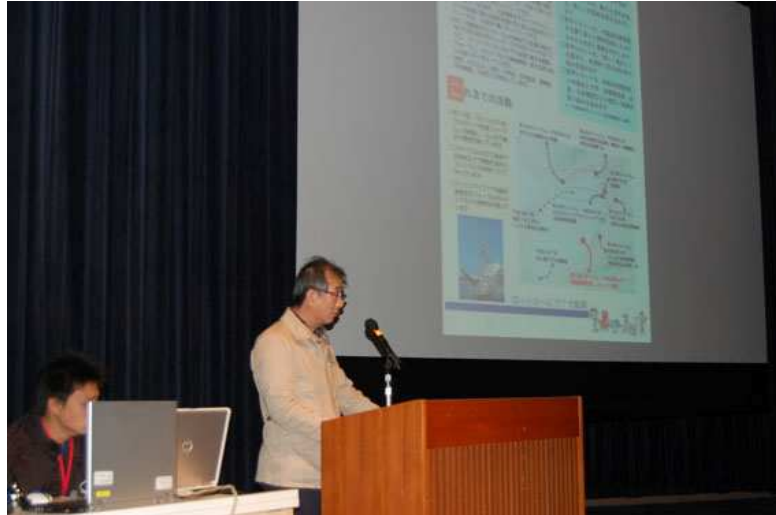
発表内容を大別すると以下のとおり。

ネットワーク活動 4

地域の活動 3

環境学習・地域連携 6

学術的調査・研究 4



ネットワーク活動

- ・海をよくしたいと考える人々の情報交換ができ、成功例、失敗例を研究して、全国的にどういうふうによれば一番よいか、それを確立するのに役立つ。
- ・いろいろな知識、全国的な交流・協力体制をつくることも重要。
- ・同じ目的を持って運動する人が増えれば、社会的な認知度も高くなる。
- ・サミットなどで成功例を発表することで張り合いになる。

地域の活動

- ・調査・研究も地元の団体と手を取り合っ行って、結果について逐次報告していくのがよいのでは。

環境学習・地域連携

- ・大学、水試から助言を受ける必要

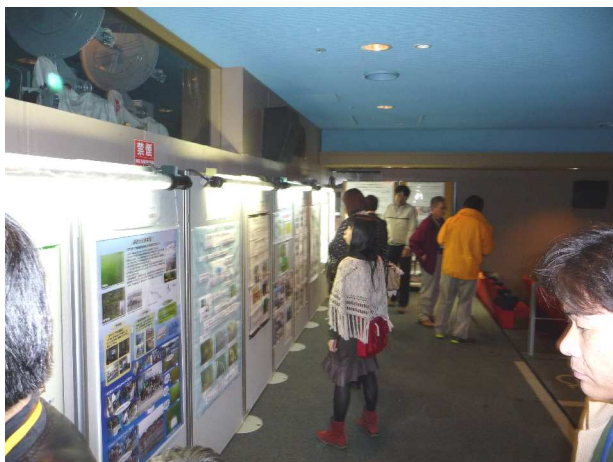
学術調査・研究

- ・成功事例の情報、アマモが生育するような場所を示すなどの助言を。
- ・”アマモが元あった場所という”こだわりがある場所についてはどんな環境条件を整備すればよいかの助言を。

コメント

- ・ぶれない目標を持って、市民団体から行政、他の団体に呼びかけて、全体的な協力を進めていくこと。
- ・それぞれの得意技を発揮すること。

3) ポスター展示状況



7. 「全国アマモサミット2011」特別企画

(1) 海遊館ガイドツアー

参加者の殆どが海遊館などの水族館で将来働きたいと希望する福井県立小浜水産高校(12人)、大阪コミュニケーションアート専門学校(11人)の学生さんでしたので、定員20人のところを海遊館さんにご無理をお願いして25人で実施した。



ツアーガイドはマリンメイトのほか本サミットスタッフで海遊館・飼育展示部・普及交流チームの北藤真人さんにも同行して頂き、通常のルートのほか特別企画展「ちいさな海のいきものたち かわいい!コレクション」のアマモ水槽についても説明して頂いた。

参加した学生さんからは、飼育員の方々の普段の仕事風景やこのような場所で働いているんだなということがわかり、自分達の将来を考えるのにとっても参考になったと感謝の言葉をもらいました。

(2) アマモスケッチの展示と塗り絵コーナー

イラストレーターの福井美香さんは、アマモがどんな植物で、どんな役割を果たしているかをイラストと説明文でわかりやすく紹介されています。そこで、福井美香さんにこのイラストの展示をお願いしました。(http://www015.upp.so-net.ne.jp/AmamoSketch/)

また、海遊館に来られた方々に足をとめて頂き、アマモを少しでも知って頂くために、小学生以下の子ども達が楽しめる塗り絵を行うことを計画し、福井美香さんにアマモおよびアマモ場に生育する生き物を題材とした下絵(イラスト)をお願いしました。

1) アマモスケッチの展示

展示位置が講演会会場・ホール入り口への通路際であり、立ち止まり、ゆっくり目を通す方は少なかった。また、塗り絵を描く子ども達の父兄も、子供から目を離せず、アマモスケッチに目を留める方は少なかった。

また、用紙サイズA3では、イラスト、文字とも小さく、人目を引くことも難しく、読みづらいなどの問題があったと反省している。





2) 塗り絵コーナー

立ち止まったのは海遊館に入館し、館内を一巡して退館した親子連れの12歳以下の子ども達で、予想以上に賑わいました。子どもは塗り絵が好きですね！

塗り絵枚数は136枚で、一人で複数枚描く子もいましたが、少なくとも100名の子ども達が立ち寄ったこととなります。

そこで、描かれた絵をみて一言。子ども達の多くがカニさんを赤く描いていることには驚かされました。茹でる前のカニの姿をみる機会が少なく、お皿に盛られて食べる前の茹で上がったカニ、赤く色づいたカニを思い浮かべる？これでは困りますね！





(3) 水中写真展

アマモスケッチの展示と同じで、展示位置がホール入り口への通路際とその背面ということで人目に触れにくい場所であった。

展示して頂いた大阪コミュニケーションアート専門学校之城者先生には申し訳ない思いです。



8 . 「全国アマモサミット2011」連携企画・淡路島由良アマモ見学ツアー

アマモサミット前日、由良・生石研究村が連携企画として「淡路島由良アマモ見学ツアー」を実施した。

台風のような悪天候にもかかわらず、長崎県、鳥取県、石川県などから 35 人もの参加者があった。

ツアーはエトワール生石に集合し、まず、大阪府立大学名誉教授・細田先生から「由良湾におけるアマモ復活の経緯とその検証(自然と人間の共生の例)」と題して、人と自然とどうかかわるべきかについてご講演を頂いた。



細田先生の講演のあと、由良湾成ヶ島の自然環境を見学した。
 残念ながら船上からのアマモ場観察はできませんでしたが、由良・生石研究村運営協議会メンバーの方から説明を受けながら、成ヶ島の海岸を散策しました。



散策のあと、エトワール生石に戻り、NPO 法人南港ウエットランドグループ理事の和田太一さんから「由良湾・成ヶ島のアマモ場での大発見」、成ヶ島を美しくする会の平井真一さんから「由良湾のアマモ場とその周辺の生き物」についてご講演頂いた。

このあと、夕食を摂りながらの交流会があり、楽しく、有意義で充実した一日でした。



9. 「全国アマモサミット2011」交流会

講演・発表も全て終わったあと、海遊館に隣接している天保山マーケットプレイス内のメルボルンハウスで交流会を行った。参加者は講演者ほか合計 57 人で、予定していた以上の方々が参加して頂き、盛会でした。

全国アマモサミット2011

11/20 あまも のゆりかごから
アマモ

時間 AM11:00~PM5:15
場所 海遊館ホール及びホール前
料金 参加無料
主催 「全国アマモサミット2011」実行委員会

イラスト：福井美穂

アマモ場再生の輪をひろげよう!

全国から「海のゆりかご」アマモ場を守り育てる活動をする人達が集い、その取り組みやアマモ場の現状を紹介します。大人も子どももアマモについて楽しく学べるコーナーもあります。この機会に海の環境について考えてみませんか。

【お問い合わせ】
 「全国アマモサミット2011」実行委員会事務局 TEL・FAX 0798-43-3834

(3) 朝日新聞
 11月17日(神戸版)、11月19日(大阪版)で報道された。

20日、海遊館でアマモサミット

海のゆりかご 再生の輪



福井県で繁茂するアマモ
 アマモ種子バンク提供

「海のゆりかご」とも呼ばれる海草アマモの働きなどを考える「全国アマモサミット」が20日、大阪市港区の水族館「海遊館」で開かれる。アマモを増やすにはどうすればいいか。NPO関係者、研究者らが集う4回目の全国サミットで、関西では初開催になる。

赤穂や明石など繁茂

アマモは1.5mほどまで伸びるイネに似た海草。密生して林のようになり、魚の産卵場や稚魚のすみかになる。市民団体や漁協などでつくるサミット実行委員会事務局のNPO「アマモ種子バンク」(西宮市)によると、高度成長期に全国的に激減したが、近年は減少傾向に歯止めがかかった。県内では赤穂市、明石市、姫路市などの沿岸でまとまって生えている。

サミットのテーマは「アマモ場再生の輪をひろげよう!」。午前11時に始まり、保全や再生に取り組んでいるNPOや学校、漁業関係者が活動を報告。造成や埋め立てによるアマモ場の減少や市民団体の役割などについて、各自が自由に楽しめるAMAとをテーマにした特別講演やパネルディスカッションもあ

実行委員長の出口・阪大大学院教授に聞く

「アマモを増やす狙いは、光合成で酸素を出し、汚れの元になる有機物を養分にするので水がきれいになります。ある程度の面積があれば波を和らげたり、海底の浸食を防いだりする役割もある。浅い砂泥に生えるので、水が濁って光が届かなくなると枯れてしまいます。漁業への影響は昔はスクリーンに絡まるのを嫌われましたが、20年ほど前から「アマモを増やしてくれ」と漁師さんと言われるようになってきました。魚の産卵場や稚魚の隠れ家になるからです。アマモの近くには養殖のりが魚落ちして「ハイ」とも言われます。ただ、体にまとわりついたり虫がいたりするので、海水浴客には嫌がられます。シーズン前に刈り取る必要があります。」

浅瀬減少、温暖化で生育に不安

「今後の課題は、大阪湾では埋め立てが進む、アマモが生育できる浅瀬の確保が難しい。高い水温に異なると、温暖化による影響も出ています。各地のアマモがどれだけの海水温に耐えられるかを調べ、注視していく必要があります。」

参加無料、問い合わせは「アマモ種子バンク」(0798-43-3834)まで。



福井県で繁茂するアマモ
 アマモ種子バンク提供

「海のゆりかご」再生の輪

「海のゆりかご」とも呼ばれる海草アマモの働きなどを考える「全国アマモサミット」が20日、大阪市港区の水族館「海遊館」で開かれる。NPO関係者、研究者らが集う4回目の全国サミットで、関西では初開催になる。

アマモは1.5mほどまで伸びるイネに似た海草。密生して林のようになり、魚の産卵場や稚魚のすみかになる。サミット実行委員会事務局のNPO「アマモ種子バンク」(西宮市)によると、高度成長期に全国的に激減したが、近年は減少傾向に歯止めがかかった。県内では赤穂市、明石市、姫路市などの沿岸でまとまって生えている。

サミットのテーマは「アマモ場再生の輪をひろげよう!」。午前11時に始まり、保全や再生に取り組むNPOや学校、漁業関係者が活動を報告。造成の課題や市民団体の役割などを考える特別講演やパネル討論がある。参加無料。問い合わせはアマモ種子バンク(0798・42・3884)まで。

あす、大阪でサミット

(4) ホームページ

全国アマモサミット2011のホームページ(<http://www6.ocn.ne.jp/~a-summit/>)以外に、大阪府と兵庫県の代表的なイベント情報掲示板に掲載した。

- ・KVネット関西人のためのボランティア活動情報ネット(<http://www.kvnet.jp/>)
- ・ひょうごボランティアプラザ(<http://www.hyogo-vplaza.jp/>)

また、ボランティアスタッフの所属する団体のホームページでも、開催予告と事後報告を行って頂いている。

(5) 雑誌「関西のつり2012.2月号」



国立公園成ヶ島を美しくする会会長の花野晃一氏。淡路島の由良湾では清掃活動により水質や土壌を改善しただけで自然発生的にアマモ場が再生したという。ただし漂着するゴミは年々増えているという話も…。

パネルディスカッションではアマモ場再生の技術面よりも、今後の活動の継続のために次世代に伝えていくかについて議論された。左からコーディネーターを務めた三重大学生物資源学研究所教授の船川行幸氏、東洋建設株式会社土木事業本部営業第一部長の福田 勉氏、特定非営利活動法人環境教育技術振興会理事の若井克己氏、神奈川県水産技術センター栽培技術部主任研究員の正崎孝浩氏、大阪湾見守りネット代表の田中正視氏、アマモサミット代表の西野ひかる氏。

実行委員長で特定非営利活動法人アマモ種子バンクの出口一郎氏より開会の挨拶。

国土交通省近畿地方整備局港湾空港部港湾空港企画官の宮島正吾氏が来賓を代表して挨拶。

阪南市立西島取小学校教諭の前田ゆきみ氏。大阪湾に隣接した地の利を生かしてアマモの種まきや観察活動を授業に取り入れ、子どもたちに大阪湾の自然環境を考える機会を作っている。

福井県立小浜水産高等学校ダイビングクラブのメンバー。「アマモマインドプロジェクト」と名づけ、地域住民や漁業者とも連携して清掃活動やアマモ場の整備や調査を行なっている。

実行委員副委員長でNPO法人環境教育技術振興会の副理事中氏より閉会の挨拶。興味のあるダイビングを染めたいかと思えたのがアマモサミット開催のきっかけと話す。

アマモは被子植物門単子葉植物綱オモダカ亜綱イバラモ目アマモ科アマモ属の種子植物である。一般に「海藻」と呼ばれるワカメやノリは藻類であり、多くは岩礁帯に生えて（固着して）いる。一方、海産の種子植物である「海草」は根からの栄養吸収を主として、そのため生息域は砂泥底に限られ、その種類も少ない。藻類も種子植物も光合成のための光エネルギーを必要とするが、海草は陸上で進化した種子植物の一部が水中へ進出して適応したグループと考えられ、もともと海で発生した藻類と比較してより多くの光エネルギーが必要となる。そのため生息域の水深は1層前後から数層までに限られ海水も一定レベルの透明度が確保されていないならば生育できない。また、種子が発芽するためには一時的に淡水に

さらされる必要があることが知られており、河川などからの淡水の流入がある地域以外では定着しにくいようだ。「アマモ場」と呼ばれるアマモの群落は「海のゆりかご」とも形容され、起伏の少ない砂泥底において緩流域となり、稚魚や小動物にとって格好の生息場にもなる。釣り人によく知られているところではアオリイカが好んでアマモ場で産卵する。アマモの葉面には珪藻類などが付着して増え、それが他の微生物の餌にもなる。アイゴやブダイなどの魚、ウニやウミガメやジュゴンにはアマモ自体を餌としている。また、水の富栄養化の元となる窒素とリンは植物にとっても必須栄養素であり、アマモが根を張ることにより、堆積したそれらの化合物を微生物が分解

全国アマモサミット 2011

主催＝全国アマモサミット2011実行委員会
 共催＝特定非営利活動法人アマモ種子バンク、特定非営利活動法人環境教育技術振興会
 後援＝国土交通省近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所、環境省近畿地方環境事務所、大阪湾再生推進会議、洲本市、財団法人ひょうご環境創造協会、全国漁業協同組合連合会、由良・生石研究村運営協議会（順不同）
 協賛＝特定非営利活動法人未来守りネットワーク、コーセー化粧品販売株式会社神戸支店、東翔建設株式会社（順不同）
 協力＝株式会社海遊館、大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪湾見守りネット、国立公園成ヶ島を美しくする会、特定非営利活動法人釣り文化協会、ジー・オーシャン、神戸市立須磨海浜水族園、赤穂市漁業協同組合、江井ヶ島漁業協同組合、新庄漁業協同組合、りんくうタウン沿岸漁業振興連絡会、海のいのちクラブ、株式会社ラッシュジャパンイオンモールりんくう泉南店（順不同）

全国アマモサミット2011



国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部沿岸海洋新技術研究官の古川恵太氏による特別講演。行政側として、自然環境保全・改善活動について市民にいかに関与して、自然環境保全・改善活動について市民にいかに関与してもらい協働するかが大事と訴え、さまざまな成功事例を紹介。



三重県水産研究所水産環境研究部地域COE閉鎖性海域環境研究員の国分秀樹氏。アマモ場の再生とともにその周囲のアサリの生育状況などを調査し、一定の効果は確認されたが、まだ漁業者などへはその重要性が浸透しておらず、底引き網漁などの共存が今後の課題という。



りんくうタウン沿岸漁業振興連絡会を代表して泉佐野漁業協同組合参事の赤井重雄氏。各漁協がそれぞれの漁場再生を主目的にアマモ場の株が根づいたシートを敷設する活動を自費で行なっている（平成21年度より大阪漁業振興基金から予算の半分を得ている）。



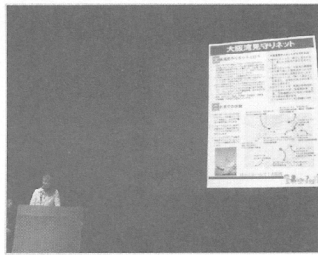
福岡市港湾局環境対策部環境対策課の甲斐由将氏。事業仕分けに引っ掛かってしまい存続が危ぶまれたが、むしろPR不足だと指摘され国からもアマモ場再生活動に一定の理解を示してもらえたと裏話も披露。達成したアマモ場の近くに、種子が漂着して自生したと思われるアマモ場もできたという。



独立行政法人水産総合研究センター水産工学研究所水産土木工学部生物環境グループ長の桑原久美氏による特別講演。アマモ場も含めた藻場の減少、いわゆる「磯焼け」についてその現状と対策を紹介。磯焼けの原因の60％はウニや魚による食害であり、アイゴやブダイを漁業資源として活用することも大事という。



大阪コミュニケーション専門学校ダイビングゼミ生の延岡 爽氏。ダイビングの技術を生かしてNPO法人環境教育技術振興会と協働で大阪湾再生プロジェクトなどさまざまな活動を展開している。



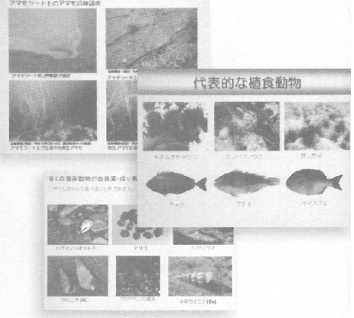
大阪府環境農林水産総合研究所水産研究部水産技術センター主任研究員の鍋島靖信氏より各地の団体の活動報告のポスターの紹介。

し、硝酸態窒素もしくはアンモニア態窒素およびリン酸態リンとしてアマモが吸収することで水質浄化につながる（これにもともと海水中に多量に含まれているカリウムを含めると植物の三大必須栄養素）。堆積物の分解は土壌のヘドロ化の防止でもあるからアサリなどの貝が生息しやすくなる。もちろん光合成による二酸化炭素の吸収が海水の酸性化を抑えるとともに酸素を供給しているのはいうまでもない。食物連鎖の中でどの生物が重要でそれが重要でないということはいえない。すべての生物が重要であり対等なことには言えない。ただ、アマモはその生息条件が限られるうえにかわりとなる生物もほとんどない。たとえば淡水の水草は浸透圧の違いから海水中では生育できず、仮に河川から流れてきてもアマモの代用にはなり得ない。海藻は種子植物のような根は持たず、主として水中の栄養塩類を吸収し土壌から直接栄養吸収することはできない。そういう意味ではアマモの存在は貴重かつ特別であり、いったん失われてしまうとそこに依存している多くの生物に

大きな影響を与えることになる。河口付近で砂泥底という条件は、沿岸部でも特に人間による環境破壊を受けやすい地域である。埋め立てや河川の水質悪化が底質や透明度をかえてしまふからだ。かつては国内の多くの地域で見られたアマモ場も減少の一途をたどっている。当然、それまでそこで行なわれていた生産と消費はなくなる。海水は富栄養化して赤潮の発生などを招き、産卵場を失った魚やイカは減少するだろう。つまり漁業資源の減少という形で我々人間にも影響は及んでくる。そんな現状に危機感を抱いた人々により、近年は各地でアマモ場の再生活動が盛んになりつつある。そうした活動を連携させ、より恒常的、一般的なものとするための情報交換の場として企画された「全国アマモサミット2011」が、去る11月20日に大阪市の海遊館ホールにて開催された。第1回は2008年に横浜で開催され、大阪での初開催となる今回は4回目となる。内容は各地でアマモ場再生に取り組み団体の代表者による講演とパネル

ディスカッション。講演ではそれぞれの成功事例の紹介や提案、また聴講者との質疑応答などが行なわれた。パネルディスカッションでは、今後こうした活動をいかに一般市民にアピールして次の世代に伝えていくか、市民団体や民間企業、NPO法人、行政、漁業者などがそれぞれ行なっている活動をもっとうまく連携させられないかといった、活動の継続をはかる方策について活発な意見交換がなされた。具体的な事例や意見についてはすべてを紹介できないが、要約すれば「より活動の輪を広げて継続することで、漁業資源として見返りが得られるし、活動自体は教育の場や町おこしといったコミュニティ形成の手段にもなり、自然環境と人間とのかかわりを深く知る機会を提供できる」ということだ。講演の資料としてスクリーンに映された映像には、アマモの葉面について微生物を食べるメバルの稚魚の姿があった。我々釣り人にとっても多大な恩恵を与えてくれるであろうアマモ場の再生に、機会があればぜひ協力していただきたい。カメラ/文 丸山大輔

イスカッション。講演ではそれぞれの成功事例の紹介や提案、また聴講者との質疑応答などが行なわれた。パネルディスカッションでは、今後こうした活動をいかに一般市民にアピールして次の世代に伝えていくか、市民団体や民間企業、NPO法人、行政、漁業者などがそれぞれ行なっている活動をもっとうまく連携させられないかといった、活動の継続をはかる方策について活発な意見交換がなされた。具体的な事例や意見についてはすべてを紹介できないが、要約すれば「より活動の輪を広げて継続することで、漁業資源として見返りが得られるし、活動自体は教育の場や町おこしといったコミュニティ形成の手段にもなり、自然環境と人間とのかかわりを深く知る機会を提供できる」ということだ。講演の資料としてスクリーンに映された映像には、アマモの葉面について微生物を食べるメバルの稚魚の姿があった。我々釣り人にとっても多大な恩恵を与えてくれるであろうアマモ場の再生に、機会があればぜひ協力していただきたい。カメラ/文 丸山大輔



11. 「全国アマモサミット2011」会計報告

収入は受託金、協賛金、活動助成金ほかで1,142,500円、支出は旅費交通費、諸謝金ほかで1,114,621円で、ほぼ収支が合いました。剰余金27,879円は次回のアマモサミット主催団体にお渡しすることにします。

また、実行委員会のゴム印、ストラップ名札入れなど今後も使用できるものも次回のアマモサミットし際団体に引き継ぎます。

収入		1,142,500	
	受託費	300,000	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
	協賛金	195,500	NPO法人未来守りネットワーク、東翔建設㈱、コーセー化粧品販売㈱、大阪港湾・空港整備事務所
	助成金	500,000	大阪府環境保全活動補助金、未来のみなとづくり助成(港・海辺活動)
	雑収入	147,000	交流会会費42名分
支出		1,114,621	
	委託費	104,000	水中ビデオの編集費、吊り看板ほか
	印刷費	195,825	ポスター、チラシほか印刷費
	会議費	8,000	会議室使用料
	諸謝金	114,500	司会および講演者の謝金、ポスター・チラシデザイン、開催案内状送付リスト入力作業アルバイト代
	賃貸料	68,280	パーティーション、蛍光棒レンタル料
	雑費	272,112	ガイドツアー25名分、交流会会費55名分ほか
	消耗品費	39,464	プリンター用インクカートリッジ、ストラップ名札入れ、封筒ほか
	通信運搬費	48,570	開催案内状送付ほかの切手代、ポスター返却の宅急便代
	旅費交通費	258,830	司会、講演者ほかの旅費
	消耗什器備品費	5,040	実行委員会ゴム印

なお、実行委員会監事・岩井克巳氏の会計監査を平成24年2月25日に受け、会計処理が適切に行われたことを確認して頂きました。

会計監査報告書

「全国アマモサミット2011」実行委員会の平成23年7月1日から平成24年2月25日までの事業および会計の状況について監査を行いましたので、ここに報告します。

1. 事業は、法令および規約に従い、適切に行われていることを認めます。
2. 会計は、各種出納記録、証拠書類、預金通帳、現預金残高などを確認し、正確かつ適切に行われていることを認めます。

平成24年2月25日

監事 岩井克巳 